

黄砂アレルギー (2) PM2.5 新たな大気汚染物質

今年1月末頃から、PM2.5なるものが、俄かに注目されるようになってきました。2.5マイクロメートル以下の粒子状物質 (Particulate Matter) で中国あたりから偏西風に乗ってやってきます。1月初めから2月5日までの調査で、日本の環境基準(1立方メートル中35マイクログラム)を超えた日が16日あったそうです。10~11月頃から5月頃までの従来の黄砂飛来のコースなのですが、今回は何かが違って感じられました。

今までの黄砂に反応しなかった人でも、新たにこの物質にアレルギー症状が出ているのです。症状は、軽いものから、学校や仕事を休むほど重いものまであります。ヒリヒリとした咽喉の痛み、咳、息苦しさ、眼痛、眼の痒み、鼻汁、鼻づまり、鼻粘膜の痛み、頭痛、うつ状態、胃痛、胃もたれ、食欲不振、腹痛、下痢、湿疹、アトピー性皮膚炎の悪化などです。花粉症か、従来の黄砂か、または感染症かと疑って調べてみるのですが、殆どそうではないのです。1月31日に大量飛来してきたPM2.5を採取して検査に使用しているのですが、このサンプルにのみ反応する人が急増しているのです。

症状の重い人々に、いつ頃からか尋ねますと、1月中旬頃から具合が悪くなったと言われます。つい昨年(2011年)の12月に拝見した時は、花粉や黄砂にアレルギー反応があった方も、今はそれらに何の反応もせず、PM2.5サンプルにのみ反応するのです。さらに農薬(殺虫剤、除草剤)、ディーゼルの排気ガス、タバコの煙、ホルマリン、多くの花粉等に対する反応も消えているのです。本当に治っているのではなく、おそらくスイッチ現象(何らかの強いアレルゲンまたは毒性の強いものにさらされると、そのみに体の反応が集中し、他の弱いアレルゲンには反応しなくなる現象)がおきているため、今は、PM2.5にのみ反応する状態になっていると思われるのです。それほど、このPM2.5という大気汚染物質には、新たな毒性の強い、抗原性の強いものが加わってきたと考えなくてはならないでしょう。

中国の重化学工業、その他の産業の公害対策をしっかりと取り組んでももらいたいものです。日本の技術協力も必要ではないでしょうか。風や大気には国境がありません。限りある地球の大気がますます汚染され、清浄な空気がどこにもなくなるのではないかと心配です。

何らかのアレルギーを持っている方や、化学物質過敏症の方は、特に注意が必要です。通常のマスクでは防ぎきれず、N95マスク(米国規格で、0.3マイクロメートルの微粒子を95%以上カットできるマスク)が必要となります。種類は多いのですが、マスクそのものの材質にアレルギーがあったり、顔の形にフィットしない場合があります、ご自分に合うものを探しておかねばなりません。PM2.5にはガス状のものも含まれていますので、活性炭マスクも併用するほうがよいようです。通常のマスクも、気道の乾燥や冷気を防ぐためには有効です。症状の強い人は、空気清浄機も必要でしょう。外出から帰れば洗顔、うがい、手洗いをし、また、半身浴でのデトックスや、腸内細菌叢を良くして、睡眠不足にならないように規則正しい生活を心がけ、解毒機能や免疫力を高めるようにしましょう。